

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報



特集 ブラジルのアラブ・レバノン移民パワー

- ・各界で活躍するアラブ・レバノン系の人たち ～政界・医学界から文学界まで
- ・ブラジルに定着したアラブ料理

あの町この町

チラデンテスカ Tiradentes



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人：大前孝雄／編集人：岸和田仁

新規会員募集中!

詳しくは P21 をご覧ください。



華やかな香り

深いコクとうまみ

素材を生かす澄んだ赤橙色

もう日本から持ち込まなくても大丈夫！
リベルダージ地区やお近くの日本食材店で
お買い求めいただけます。

お待ちせいたしました！
あの「キッコーマン本醸造しょうゆ」が
いよいよブラジル・サンパウロで
現地製造・販売されます。

主原料



日本での歴史ある製法にこだわり、伝統的なしょうゆの原料である「大豆」と「小麦」を使用。

現地製造



日本からの技術者の
厳しい管理のもと、
**サンパウロ・
カンピーナス工場**で
しょうゆを製造し、
ご提供します。

お問い合わせ | KIKKOMAN DO BRASIL INDÚSTRIA E COMÉRCIO DE ALIMENTOS E BEBIDAS LTDA.
TEL:011-3283-0733 E-MAIL:contato@kikkoman.com.br

f @KikkomanBrasil

ALIMENTOS

BEBIDAS



kikkoman
seasoning your life

目次

あの町この町 チラデンテス [高嶋尚生]	3
ブラジル・ナウ ブラジルにおける アラブ系移民プレゼンスとそのパワー [編集部]	5
【特集】ブラジルのアラブ・レバノン移民パワー 各界で活躍するアラブ・レバノン系の人たち ～政界・医学界から文学界まで [編集部]	6
【特集】ブラジルのアラブ・レバノン移民パワー ブラジルに定着したアラブ料理 [いづあきこ]	8
Hiroshima Bossa Open Cafe 音楽で広島と伯国つなぐ 珈琲、移民、平和などテーマに [堀江剛史]	11
ブラジル現地報告 ブラジルにおける日本語教育の現場から [肥田文子]	12
連載・日系企業シリーズ 叩き上げの日本人が模索する「ブラジルでの経営の形」 [倉智隆昌]	13
連載・ビジネス法務の肝 生産拡大と環境保全という 相反する課題に挑戦するブラジルアグリビジネス 環境保全に係る法制度からの視点 [柏 健吾 / 林瑞穂 / 吹田三奈斗]	14
連載・税務の勘どころ マナウス・フリーゾーン (Zona Franca de Manaus) [マルコ・フルタード / 三上智大 / 天野義仁]	15
エッセイ 教え教わり一期一会 (後篇) ～コロナ禍で深まるブラジルとの絆 [K Ta ☆ brasil]	16
ウーマン・アイ 私のポルトガル語ガイド体験 [中村友美]	17
ジャーナリストの旅路 ブラジルとメキシコをつなぐ日系の縁 [宮本英威]	17
連載・文化評論 ブラジル文学アカデミーの新会員をめぐって ちょっとした騒ぎになったのは何故？ [岸和田仁]	18
キャンパス・コラム 私の「国内ブラジル留学」 [岩谷優太郎]	19
新刊書紹介	20
連載・ブラジルあれこれ Café Lamas	20
協会からのお知らせ	21



写真＝永武ひかる
「表紙のひとこと」

「オープンから焼きたてのエスフィーハ。アラブ二世宅で手作りが香る。ブラジルの代表的なこのスナックはアラブの食。挽肉やチーズなど具が入る三角パンに、具が乗る丸形。アラブを受け継いでいるものは？ 三世の娘さんの答えは「ママの料理」」

永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本「世界のともだち3 ブラジル」(偕成社)等。
www.hikarunphoto.com

チラデンテス Tiradentes

ブラジル独立運動の英雄チラデンテス (1746.8.16～1792.4.21) はブラジル人なら誰でも知っている。彼が処刑された4月21日は「チラデンテスの日」という国民の祝日となっている。本名はジョアキン・ジョゼ・ダ・シウバ・シャビエルだが、歯医者だったのでポルトガル語で「歯を抜く」と言う意味の「チラデンテス」というあだ名がついた。国民的英雄であったが故にその名にちなんで「チラデンテス通り」や「チラデンテス広場」はブラジル全国至る所にある。建物ではリオデジャネイロ州の州都のセントロにある「チラデンテス宮殿」(現在の州議会議事堂)が有名だ。



▲文化と食のフェスティバル

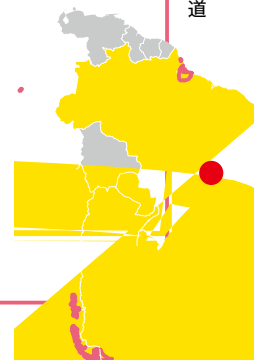
一方、本家のチラデンテスは、ミナスジェライス州の州都ベロオリゾンテから約200km、車で3時間のところにある。標高927mの高原の古い町だが、彼の生誕地に近かったため没後約100年経ってその功績を称えチラデンテスと改名された。観光客は17世紀のゴールドラッシュで建設された歴史的都市でユネスコの世界遺産のオウロブレットを訪れてもチラデンテスは遠いのであまり行かない。人口1万人の小さな田舎町だが、実は、質が高く洗練されたレストランがいっぱいあるグルメシティである。

1997年から毎年8月または9月に文化と食のフェスティバル (Festival Cultura e Gastronomia de Tiradentes) が開催され、ブラジルはもとより国外からも多くの人が押しかける。またセンスが良く素敵なボウザーダ (小規模ホテル) もいっぱいある。古くて趣のある木製



家具がおかれた部屋にいと気分が落ち着く。窓から昔のまま保存されているコロニアル様式の街並みも見える。小さな石畳の道を歩いていくと古い教会がある。白壁で窓枠を青や黄色に塗られた歴史的建築が随所に観られる。週末や連休には家族連れ (どちらかと言えば富裕層の家族連れ) が訪れ、お気に入りのボウザーダに滞在する。町なかのレストランに繰り出して美味しい食事を満喫している。チラデンテスは小さな町なので見どころを全て歩いて回ることができる。ミナスジェライス州に行ったら、少し足を伸ばして訪れる価値は大ありの場所！ 高原の自然、古い町並みの雰囲気、食を楽しんで、ゆっくりと流れる時間を味わっていただきたい。

▲チラデンテスの教会に繋がる坂道



高嶋尚生 (協会理事)

SAUDADE DO BRASIL

43年間南米一筋!ブラジル専門の旅行会社 (株)アルファインテル

ブラジルへの

ご旅行・出張

は 創業 1979 年の

アルファインテル

に お任せください。

新型コロナウイルスの世界的な流行により、海外旅行に行くのは難しい状況が続いています。

海外旅行に対する考え方も変わり、より安心・安全が求められるようになりました。

コロナ禍でも、アルファインテルは南米系旅行会社で唯一のIATA(国際航空運送協会)公認代理店として、

主に在留ブラジル人の皆様にブラジル行きの航空券を手配し続けている実績があります。

ご出発前に必要なPCR検査・陰性証明書の様式やワクチンパスポートなど、

各国の要件も最新情報にてご案内し、より安心・安全な旅をご提供します。

主要取扱航空会社: ルフトハンザドイツ航空、カタール航空、エミレーツ航空、エールフランス航空、KLMオランダ航空、
ラタム航空、アメリカン航空、ユナイテッド航空、デルタ航空、トルコ航空、イベリア航空、ゴル航空他

航空券のほか、現地のホテル、車両、ガイドの手配も実績ある弊社にご用命ください。

お客様の声

2007年よりアルファインテルさんとブラジル音楽好きに特化したブラジルツアーを開催しています。なかでも2010年度のジョアン・ジルベルト&ルイス・ゴンザーガの故郷訪問ツアーは思い出深いです。案内してくれた現地ブラジル人ガイドさんも「こんな所に来たの初めて!」と写真を撮りまくるほどでした(笑)。入手困難なイヴェッチ・サンガロのコンサートチケットを人数分確保していただいたことにも感謝しています。コロナが収束したらまた再開しましょう!引き続きよろしくお願いします!

ブラジルへ帰国する際は必ず利用させていただいています。乗り継ぎ便に間に合わないトラブルなど、いざという時にブラジル現地でも相談できるので、安心してブラジルへ行けます。また、ブラジル観光地のことを知り尽くしたスタッフが旅行プランを提案してくださるので、はじめての方でも失敗しない最高のブラジル旅行を楽しむことができます。

僕が海外を旅するようになったのは25年くらい前。月日が経ち今は毎年のようにブラジルに行く生活になりました。治安状況の変化や新型コロナのような感染症が流行ったりしたとき、旅のアマチュアである僕らには知りようがない正確な現地情報や、危険を避けるノウハウが旅行会社にはあって、航空券をそこで買うということは、旅が終わる日本の土地を踏むまで見守ってもらっている、という安心感があることに気がつきました。旅の目的や希望実現のためのプランも一緒に考えてくれます。安心して旅の準備で実が一番大切なポイントですし、アルファインテルさんの細やかな対応や気遣いが本当に助かります。

Willie Whopper氏
(Barzinho Aparecidaオーナー)



平野勇パウロ氏
(株)アルテソルーション
代表取締役



宮澤摩周氏
(パーカッションスト・
Quer Swingar Vem Pra Cá代表)



観光庁長官登録旅行業 第1835号
東京都港区西新橋1-20-10 西新橋エクセルビル7階
株式会社アルファインテル
電話: 03-5473-0541
e-mail: info@alfainter.co.jp



Accredited
Agent

photo by Junko Sekine



BRASIL



NOW

ブラジル・ナウ

ブラジルにおける アラブ系移民プレゼンスとそのパワー

ウイリアム・ボーネル。ブラジルの代表的TVニュース番組ジヨルナル・ナシオナル(JN)の看板キャスターだ。JNの司会を担当し始めたのは1996年だが、現在は、アンカーであり編集責任者(局長)でもあり、文字通りグローボTVの中核的存在となっている。最近ではJN報道の政府批判論調に感情的反発を繰り返すボルソナロ大統領は国家元首らしからぬ下品な振る舞いでボーネル個人攻撃を行ったりしている。野次馬には面白い対決劇だが、コロナ禍を「単なる軽い風邪にすぎない」として未だにワクチン接種を拒絶する非科学人間にはボーネルのような“普通の”報道は許しがたいのだろう。

カルロス・ゴーン。アマゾン内陸部のポルトヴェーリョ生まれの企業経営者は、つい最近まで「ルノー・日産・三菱アライアンス」の社長兼CEOとして権勢を誇っていたが、2018年末、金融取引法違反特別背任罪で逮捕され、その保釈中に海外逃亡(レバノン)した容疑者となってしまった。かつて倒産危機の日産をV字回復させた「経営の救世主」として世界の注目を集めた“輝ける企業経営のプロ”の面影はもはやない。

と、いきなり二人の知名度の高いブラジル人の名前を列記したが、この二人の有名人の共通点は、レバノン系ブラジル人であることだ。二人共レバノン移民の孫、三世である。

ちなみに名前については、ボーネルは、Bou NemrからBonemerとかわり、彼の代からBonnerと表記するようになった由だ。また、ゴーン(Ghosn)はレバノンではゴスンと発音するが、フランスやブラジルではゴーンとなった。

弊誌の今号では、アラブ・レバノン移民パワーを特集することになったので、ブラジル人なら誰でも知っているレバノン系有名人として、このお二人に言及してみた次第だ。では、レバノンやシリアなどのアラブ諸国からのブラジル移民とその子孫たちの数はどのくらいなのだろうか。これが意外と諸説紛々で、100万から1,000万まで、いろいろな数字が飛び交っていたのだ。まずは、この辺からアラブ系プレゼンスの大きさについて追いかけてみたい。

2008年にIBGE(地理統計院)が行ったサンプル調査では、白人人口の0.9%がアラブ系との推定数値が出たため、ここからブラジルにおけるアラブ系人口は約100万人という推定数字が公表された。だが、ブラジル外務省や各種メディアなど様々な情報源からアラブ系人口は少なくとも700万人、恐らく1,000万人以上であろうとの数字も並行して発表され、IBGEの推定数値(百万人)は少なすぎるとみなされる

ようになっていた。

こうした在ブラジルのアラブ系人口についての上限と下限との間の幅の広さへの疑問を晴らすべく、2019年になってアラブ・ブラジル商工会議所が市場調査会社“H2R Pesquisas Avançadas”に統計社会学的にも説得力のある調査を依頼したのであった。この全国調査は、2019年10月1日から15日にかけて、全国143市町村の3602軒もの家庭を訪問・インタビューして得られたデータをまとめたものだが、この調査の結果については、2020年7月22日付けのANBA(ブラジルアラブ通信)記事やフォリャ・デ・サンパウロ紙の2020年8月20日付け記事で詳しく報道されているので、この二つの報道記事に従って、調査の要旨をみておこう。

この調査が明らかにした、アラブ系人口は、ブラジル全人口の約7%にあたる11.61millionというもので、上下2%の誤差の範囲を勘案すると、最少で952万人、最多で1,369万人という数字が得られたのであった。また、出身国別の割合(パーセント)をみると、①レバノン 27% ②アラブ(特定国なし) 25% ③シリア 13% ④モロッコ 6% ⑤サウジアラビア 6% ⑥エジプト 5% ⑦パレスチナ 5% ⑧アルジェリア 3% ⑨ヨルダン 3% ⑩リビア 3% ⑪ソマリア 3% ⑫カタール 1% となっており、従来からいわれていた如く、レバノンをルーツとする人たちの数が一番多い。

また、調査対象となったアラブ系家庭の経済水準をみると、ブラジルの所得水準クラス分け(Aクラス~Eクラス)では、AないしBに属する高額所得層が45%を占めていた。改めて、それぞれのクラスの所得金額を確認しておくと、Aクラスとは最低賃金(2021年度はR\$1,100)の20倍以上(月収R\$22,000(現在の為替換算で約44万円)以上)、Bクラスは最低賃金10倍~20倍(R\$11,000-R\$22,000=約22万~44万円))となっている。

というのが、この調査結果の概要であったが、これによって明らかとなった「アラブ系人口はおよそ1千2百万人で、ブラジル全人口の約7%」という数値は、しばらくは“定説”となると理解してよいだろう。

これだけの数がいれば、経済界でも政界でも、法曹界や医学界でも、あるいはアカデミズムの世界や文学や芸能の分野でも活躍する人材が数多いのは当然であろう。この辺のもう少し詳しい話題や情報については、さらにはブラジルに定着したアラブ料理についても、本誌の特集記事を読んでいただければ幸いである。

ブラジル特報編集部

各界で活躍するアラブ・レバノン系の人たち ～政界・医学界から文学界まで

『ブラジル特報』編集部

政界における大きなプレゼンス

歴史学者セルジオ・タデウ・デ・ニエメイールの論文『民族アイデンティティと政治参加：国会におけるシリア・レバノン系議員』（2003年）はアラブ移民史の研究者が必ず引用する論稿なので、この機会に一読してみた。この要旨をメモしておこう。

1884年から1939年までのブラジルが受け入れた移民累計数は416万であったが、出身地別の割合をみると、①イタリア 34%、②ポルトガル 29%、③スペイン 14%、④日本 4.5%、⑤ドイツ 4%、⑥レバノン・シリア 2.4% となっている。

一方、1945年から1999年までの国会議員（上院議員+下院議員）全員の姓名（名字）を詳しくチェックし、各議員の民族的ルーツを推定してみた。その結果は、①イタリア 236名、②レバノン・シリア 163名、③ドイツ 98名、④日本 15名、⑤ユダヤ 15名、⑥スラブ 14名、⑦スペイン 5名、⑧アルメニア 4名、というものであった。（但し、ポルトガル系は名字だけでは判断しかねるとして、このリストには含まれていない。）

この調査結果から、移民の累計数ではイタリア系の10分の1以下のレバノン・シリア系のなかから、連邦議員の数ではイタリア系に次いで二番目に大きな数の議員たちを選出している、従って、レバノン・シリア系の政治参加度合いが相対的に高いことが証明された、という趣旨がこの論文の結論であった。

話題の新刊本
『Brimos :
ブラジルにおける
シリア・レバノン系
の統合とその政治
への軌跡』

今年(2021年)7月、
レバノン系政治家た
ちのルーツを深掘り

する歴史ルポ作品が刊行され、アラブ移民史研究者ばかりか一般読者の関心を持っている。著者は、Diogo Bercito という若手歴史学徒（博士課程在学中）だが、彼は元々はジャーナリストで、フォリャ・デ・サンパウロ紙の海外特派員（マドリッド支局とエルサレム支局）として中東問題を取材しているうちにアカデミックな歴史研究者へ転進した人物だ。

この本が取り上げたのは、現代ブラジル政治を担っている、現役のレバノン系政治家のファミリーヒストリーである。具体的な名前（名字）をあげると、①Boulos、②Haddad、③Kassab、④Maluf、⑤Temer、の5家族である。多くの関係者に直接インタビューを重ね、彼らのルーツが確認されれば、レバノンの現地にも出かけ、親族にも取材している。この辺はジャーナリストらしいフットワークの軽い調査ノウハウを活用しており、こうした多様な取材・調査を積みあげたうえで、この歴史ルポ本を書きあげている。

改めて、取材対象となった各ファミリー代表の現役政治家について略述してみよう。

① Boulos

ギリエルメ・ボウロス氏は1982年生まれ、サンパウロ大学で哲学専攻、同大学医学部で精神医学修士。高校教員であったが、最左派のPSOL（社会主義自由党）に参加、同党候補として2020年サンパウロ市長選では決選投票まで残り、有効投票数の40%を獲得した。現在は連邦下院議員。最近、所属党をPSB（社会党）に変更し左派連合を模索中。レバノン系3世。

② Haddad

フェルナンド・アダッジ氏は1963年生まれ、サンパウロ大学卒、学部は法学部、経済学修士（旧ソ連経済研究）、哲学博士（博論は、フランクフルト学派哲学）。大学教授から政治家へ転身、教育

大臣（2005～2012）、サンパウロ市長（2013～16）、を歴任、2018年の大統領選挙ではPT（労働者党）候補だったが、ボルソナーロ現大統領に敗北。レバノン系3世。

③ Kassab

ジルベルト・カサブ氏は1960年生まれ、サンパウロ大学卒（工学部&経済学部）、サンパウロ市会議員として政治家人生をスタートし、サンパウロ市長を二期（2006～2012）、大臣（科学技術大臣2016～2019）も歴任、2011年に中道派のPSD（民主社会党）を結党、党首に。レバノン系三世（母親はイタリア系）。

④ Maluf

パウロ・マルフ氏は1931年生まれ、サンパウロ大学工学部卒、軍政権力層への付度で保守派の政治家へ、サンパウロ市長二期（1969～71、1993～96）、サンパウロ州知事（1979～82）、連邦下院議員四期、市長時代の収賄・マネーロンダリング容疑で有罪判決。権勢を誇ったのは1970年代から90年代までである。レバノン系二世。所属党は与党PDSなど。

⑤ Temer

前大統領ミシェル・テメル氏は1940年生まれ、サンパウロ大学法学部卒、法学博士。長年PUC（カトリック大学）法学部で教鞭をとっていた（専門：憲法、民法）が1980年代末政界へ転じ、下院議員、下院議長を経て、2011年副大統領、2016年ルセフ大統領の弾劾・失職に伴い大統領へ。所属党は一貫してMDB（ブラジル民主運動党）。レバノン系二世。

▼フェルナンド・アダッジ
元サンパウロ市長



▲絶頂期のパウロ・マルフ元サンパウロ市長と
軍政最後のフイゲイレド大統領（1980年頃）

この本で取り上げられている5人の政治家の思想的立場は、最左派、左派、中道、右派、と、まさに、右から左まで何でも揃っている感があるが、5人の共通点は、①レバノン系であること、②名門サンパウロ大学卒業生であること、の二点だ。

ちなみにこの著書のタイトル「Brimos」とは何か。辞書にはない言葉だ。それもそのはず、アラブ系移民1世たちは、PとBの発音が区別できず、混同してしまったため、プリモをブリモと発音していたからだ。プリモとは狭義では従兄弟の意味だが、広義では親類縁者を指す。同じエスニックグループの仲間であるから、レバノン系の仲間同士で呼び合う時Primo 転じて Brimo が頻繁に使われていた。という背景から本のタイトルに採用されたワケだ。

セアラからサンパウロへ ～ジェレイサッチ・ファミリーの事例

前節で言及したレバノン移民二世三世たちは、マルフであれボウロスであれ、サンパウロ州を活躍の舞台としているが、北部でも北東部においてもレバノン系の経済界や政界における活躍は顕著である。ここではセアラ州のレバノン移民の事例を略述してみたい。今日ではセアラ州で最も知られたファミリーといえるジェレイサッチ一族についてである。

レバノン・Zahle 出身の Aziz Kalil Jereissati が移民としてブラジルに到着したのが1902年で、セアラ州フォルタレーザを定住地としたのが1908年であった。行商人として成功した彼は、主にバカリャウ（塩干タラ）や衣料品の商売で財を成した。彼の長男カルロス（1917年生まれ、二世）が、父親の事業を拡大、多角化した。特に当時世界的に需要が高まっていた亜麻（繊維並びに亜麻油）の加工や不動産業で手腕を発揮するや、政界にも進出し、時の権力者ヴァルガスに近づく。当時の与党PTB（ブラジル労働党）から連邦議員に選出されるが、1963年46歳の若さで急死する。残された6人の子供たちが、いずれも働き者で経済界や政界で頭角を現していく。

長男カルロス（1946年生まれ、三世）は、父の急逝に直面するや17歳に

して家業を引き継ぎサンパウロへ進出、ブラジルで最初のショッピングセンター（1966年開店）イグアテミに資本参加するなど事業を拡大、その後、サンパウロ市内ばかりかカンピーナス、ブラジリア、フォルタレーザなどに系列ショッピングセンターを展開している。彼の資産総額は22億レアル（約440億円）といわれている。

次男タッソ（1948年生まれ）は、大学（FGV ヴアルガス経営大学）を出てから家業に従事する一方、政界へ進出（所属党は当初 PMDB、その後 PSDB）。セアラ州知事を三期（1987-90、1995-98、1999-2002）務め、現在上院議員二期目、PSDB（社会民主党）元党首。彼の州知事としての評価は高く、経済面では“社会自由主義的”政策により持続可能な成長率（今で言うSDGs 公共行政）を確保する一方、公衆衛生面の改善・効率化をすすめ、そのおかげで幼児死亡率

は激減したためユニセフが賞賛した。世界中の途上国経済研究者がセアラ州経済モデルに関する研究論文を発表することになり、国連でも注目されたことは記憶に新しい。

トップクラスの総合病院 「シリア・レバノン病院」

今や、2,300人の医療関係者が働く、20階建て大病院となった Hospital Sirio-Lebanes（シリア・レバノン病院）は、ユダヤ系の「アルベルト・アインシュタイン病院」とともにブラジルの医療水準の高さを証明する、トップクラスの病院である。

1971年ブラジルでは初めてのICU（ボ語ではUTI、集中治療室）を設置した先進的医療機関だが、その歴史は意外と苦難の連続であった。この事業母体となったのが、シリア・レバノンコミュニティの女性たちが1921年結成した「婦人慈

善協会」で、1931年に最初の病棟が建てられたものの、1943年サンパウロ州政府に事実上接収され、軍の教育施設に転用されてしまう。協会に返還されたのは1959年であった。1962年に再落成し、1971年増設し病室数を100へ、1992年に現在の20階建て新病棟が完成している。

ブラジル文学を活性化する 作家 ミルトン・ハトゥン



▲作家ミルトン・ハトゥン

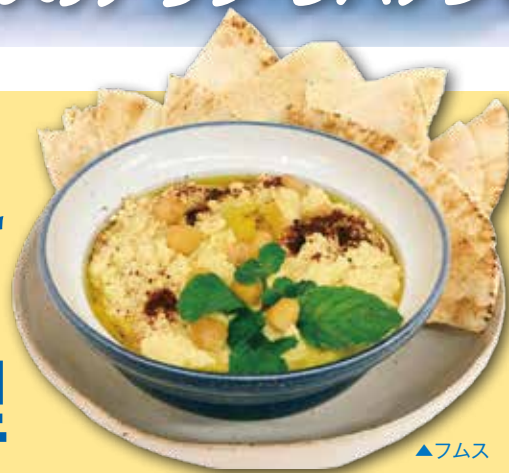
現代ブラジル文学を代表すると玄人筋から見なされる作家ハトゥンは、1952年マナウスで生まれ、サンパウロ大学建築学部を出てから文学研究に転進し、留学先のスペインやフランス（パリ大学）では比較文学やフランス文学を専攻した。フランス語やフランス文学を教える大学教授が本職で、アマゾン連邦大学ばかりでなくカリフォルニア州立大学でも教壇に立ったが、フランス文学者としてはフローベルやジョルジ・サンドの翻訳者としても有名だ。作家として発表した長編小説は4作品だが、邦訳（水声社、2017年）も出ている代表作「エルドラドの孤児」が描く世界は、アマゾン地方に巨万の富をもたらした20世紀初めのゴムブームを背景に一財産を築いたアルマンドとその遺産を食いつぶす息子アルミントの物語だ。この小説にはジュート（黄麻）栽培を定着させた日系移民も登場し、近代文明とアマゾンの神話世界が交錯する作品だ。

ハトゥンは、アラブ文化の影響を強く受けた環境で育ったレバノン系二世（母方からみれば三世）だが、そうした多様な文化的背景が彼の文学を生み出したといえる。もっと端的に言えば、ブラジルという小宇宙における第三世界と第一世界の併存を象徴するアマゾンとサンパウロのハトゥン風カクテルがこの長編小説だといってもいいかもしれない。



▲シリア・レバノン病院

ブラジルに 定着した アラブ料理



▲フムス



いしづあきこ
(料理研究家／管理栄養士)

こんなに身近なアラブ料理

「これはなんだろう？」

手を伸ばし口に入れると、ツブツブした食感にミントの清涼感とライムの酸味、そして香辛料の独特の香りに包まれた。

「なんだかブラジルではないどこか違う国の味がする…なぜだろう…？」

これは私がブラジルにきた当初、ホストファミリーやその親戚と集まるパーティー (Festa) で、初めてキビ (Quibe) を食べた時の印象だ。のちにこれがアラブ由来の料理と知り納得した。

ブラジル、とりわけ私が住んでいたサンパウロでは各国の料理が楽しめる。そしてアラブ料理もしかり。

日本ではあまりメジャーではないアラブ料理だが、ブラジルではアラブ料理の

ファストフードもあり日本でいうマクドナルドのように身近な存在である。

冒頭のように、ブラジル人が週末に欠かさない家族や友人との集まりでも、コッシーニャ (コロッケの一種) やボンデケージョ (チーズパン) とともに、アラブ由来の料理であるキビやエスフィーハ (後述) が並んでいるのを何度も経験した。

恥ずかしながら私はブラジルに住むまでこんなにもブラジルでアラブ料理が身近だとは知らなかった。だが、食べるほど、そしてそこにある食文化を知るほど、私はブラジルにおけるアラブ料理の虜になった。

ブラジル食文化への影響

サンパウロで道を歩いていると、日系人含むアジア系の人たちと同様に、アラブ系とすれ違うことも多い。それもそのはず、ブラジル人のうち7% はアラブ系の人たちと言われている。

ブラジルにあるアラブ料理は移民の歴史と重なり、シリアやレバノン由来の料理が多い。

ブラジル食文化への影響も大きく、例えば、ヨーグルトなどの乳製品、そしてミントやイタリアンパセリなどのフレッシュハーブ、胡椒・ナツメグ・クローブ・シナモンなどの香辛料やオリーブを料理に使う習慣はアラブ移民の人たちがブラジルにもたらしたものだと言われている。

ただ単純にブラジルにアラブ料理を広めただけではなく、リーズナブルで栄養バランスの良い食材や香辛料をもたらし、それがブラジル人の嗜好にも合

いブラジルの食文化に溶け込んでいったようだ。

ブラジルで学んだアラブ料理

私はサンパウロに住んでいた4年間、様々な料理学校に通いブラジル料理や製菓などを学んだ。中でも SENAC (全国商業職業訓練機関) では、ブラジル料理のコースやお酒のつまみのコース、そしてアラブ料理のコースも受講した。



SENAC アラブ料理コースの皆と (2019年6月)

アラブ料理で使う食材や香辛料の香り、そして味が好きで、お店で食べるだけではなくどうしても自分で作れるようになりたかったのだ。

私が通ったコースは一週間毎日9～17時までみっちり、多い日には一日10種類以上ものアラブ料理を作る集中コースだ。遠方から学びにくる人も多く、その人たちはサンパウロに滞在する必要があるた



▲香辛料の店 (loja de especiarias)

◀シャルート

▼アラブ系ブラジル人の友人の手作りザータル



め、一週間集中コースになっているのだろう。

12人ほどのクラスだったが、これからアラブ料理店を出す予定の人やすでに自分の店を持っている人もいた。そしてアラブ系・イタリア系・日系など色々なブラジル人が集まっていた。毎日ポルトガル語のシャワーを浴びて頭がパンクしそうになりながらも、初めて扱う食材や香辛料、先生や生徒たちとの会話、調理の新しい学び…とにかく終始胸がときめき、ワクワクが止まらなかった。

出会った先生や仲間とは今でもメッセージアプリ (WhatsApp) のグループで繋がっていて頻繁にやり取りしている。ここで学んだこと、そして出会った人たちは私にとってかけがえのない宝だ。

オススメの香辛料ザータル (Zaatar)

ブラジルでは香辛料の店 (loja de especiarias) が身近にある。そこでは沢山の種類の香辛料やドライナッツなどが量り売りで購入できる。勿論アラブ料理でよく使うザータル・スマグリ (Sumagre)、ピメンタ・シリア (pimenta siria) など日本ではあまり知られていない香辛料も手軽に手に入る。私が個人的にオススメなのはザータルだ。これは、乾燥したタイム・白ごま・塩、そして酸味のあるスマグリなどの香辛料がミックスされたものである。

オリーブオイルとともにサラダにかけたり、パンにつけたり、肉に混ぜたり…とにかく汎用性が高く、手軽に使えて美味しい。

ザータルを食べると頭が覚醒して記憶力がよくなると言われていて、シリアやレバノンでは子どもに試験日の朝食に食べさせるなんて話も聞いたことがある。

アラブ系ブラジル人の友人によると、家庭によって配合が異なりそれぞれ家庭の味があるという。私とその友人にザータルが大好きなのだけど日本ではなかなか手に入らなくて…と伝えると、本帰国前に袋いっぱい友人の家の配合で作ったザータルをプレゼントしてくれた。実はその時すでに私は自分や友人へのお土産でザータルを沢山購入していた。

日本に帰国して現在8ヶ月。おかげでザータルのストックが嬉しいことにまだある。ザータルを料理に使う度に、スマグリの程よい酸っぱさがなんだかブラジルの太陽を思い出す。いつの間にか私にとってアラブ料理というより、もうブラジルの味になっていたのである。

このザータルのストックが減ると反比例して、ブラジルへのサウダージの気持ちが増す。そして今回の訪伯に想いを馳せているのである。

ブラジルでアレンジされたアラブ料理

ブラジルに移民した日本人もそうであったように、アラブ人もブラジルに移住した際に母国の料理をすごく大切にしていた、身近な食材で再現していたそう。例えば、エスフィーハやキビを作る際に羊ひき肉の代わりに牛ひき肉を使ったり、シャルート (Charuto) を作る際に葡萄の葉の代わりにキャベツの葉で巻いたりしたらしい。それらは現在でもブラジルで一般的な料理である。

サンパウロのアラブ料理店



サンパウロには100を超えるアラブ料理のレストランがあるとされている。中でも、Habib's はブラジル国内で300店舗以上あり、ブラジルでマクドナルドの次に大きな外食チェーン店である。

Almanara もショッピングセンター内や大通り沿いなどにチェーン店を展開している。まだマクドナルドがブラジルに進出していない時代にこの店は展開していたそうで、ブラジルにおけるファストフード店のパイオニア的存在と言える。ファストフードとしてキビやエスフィーハを売ようになったのがきっかけで、一気に身近な食べ物になり広まったと言われている。

日本人が多く住むエリアでは、Halim や Jaber など気軽にアラブ料理を楽しめるオススメのお店だ。Jaber では一日に2,000個以上ものエスフィーハを売っているからその人気が伺える。

Miski や Arabia は高級店だが、居心地良く美味しいアラブ料理を堪能できる。

ブラジルで根付いた具体的なアラブ料理

ここからは、ブラジル (特にサンパウロ) に根付いたアラブ料理について具体的にご紹介する。

◆キビ (Quibe): 前述のように、ブラジルで人気のあるアラブ料理の一つ。ツブツ



◀エスフィーハ

ブした食感が特徴の挽き割り小麦 (Trigo para quibe) に、牛ひき肉・玉ねぎ・ミント・香辛料と一緒に練り混ぜて生 (cru)、もしくは素揚げ (frito)、もしくはオープンで焼いたもの (assado)。食べる時にライムを絞って食べる。本場レバノンでは羊肉を使うがブラジルでは牛肉で作るのが一般的。家で作る時の私のオススメは、耐熱皿の中で混ぜてチーズを挟んでそのままオープン焼きにすること。成形の手間がなく簡単である。

◆**エスフィーハ (Esfiha, Esfirra):** ショッピングセンターのフードコートやスーパーマーケットの惣菜コーナーに置いてあるほど身近な惣菜パン。パン生地の上に具を乗せるタイプ (Aberta)、または具を中に包むタイプ (Fechada) の2種類ある。具は、牛ひき肉・玉ねぎ・トマト・ごまペースト (Tahine)・香辛料を混ぜたものが一般的。また、その他にもチーズやエンダイブ (Escarola)、ザータルなど具の種類は様々。これも前述の通り、本場では羊肉を使うようだが、ブラジルでは私は出会ったことはない。

◆**コアリャーダ (Coalhada):** ヨーグルトの一種。牛乳・ヨーグルト・塩というシンプルな材料からなる。濾す前の状態 (Fresca) と布巾で水分をとった状態 (seca) の2種類がある。私たち日本人はヨーグルトをデザートとして食べることが多いが、アラブ人は料理に使うことが



▲キビクルー

多い。このコアリャーダをサラダのドレッシングとしてオリーブオイルとともにかけて食べたり、ミントとともにキビに添えたりする。酸味が食欲をそそり、食べて納得。これはアラブ料理にとっても合う。

◆**タブーレ (Tabule):** レバノン由来の料理で前菜としてサラダ感覚で食べる。挽き割り小麦・トマト・玉ねぎ・ミント・ライム果汁・オリーブオイル・ハーブ、そしてポイントは、イタリアンパセリをこれでもかと沢山入れること。そしてレタスの葉の上に盛り付けるのが一般的。イタリアンパセリが数本入って数百円もする日本ではなかなか同じように作れないが、1束どさっと大量でリーズナブルに購入できるブラジルでは私も家でよく作っていた。

◆**フムス (Homus, Hummus):** アラビア語でひよこ豆という意味らしい。その名の通り、茹でたひよこ豆をメインに、ごまペースト・ニンニク・塩・ライム果汁と一緒にペースト状にして器に盛り付ける。オリーブオイルをたっぷりたらし、スマグリやパブリカパウダーをトッピングしたらお洒落で栄養価の高い一品になる。パンの付け合わせとしてだけでなく、スープやシチューなどの料理に混ぜても使う。

◆**ババガヌーシュ (Babaganoush):** サンパウロのボルキロ (量り売りレストラン) でよく見かけるこちらでもアラブ由来の料理である。なすをオープンまたはグリルで焼いて、ごまペースト・オリーブオイル・ライム果汁・ニンニクで味付けしてペーストにして作る。前菜としてパンとともに食べる。

◆**ピタパン (Pão sírio):** 中がポケットのように空洞になっている平らなパン。肉やサラダなどの具を挟んで食べたり、前述のコアリャーダ・フムス・ババガヌーシュなどをつけて食べる。アラブ料理になくてはならない主食と言える。

◆**カフタ (Kafta):** 牛ひき肉・玉ねぎ・イタリアンパセリ・沢山の香辛料を混ぜた後に串に刺して焼いたもの。



▼ピタパン

の。知り合いのサンパウロに住む日系人の方が「カフタをお弁当のおかずとしてよく入れるのよ、串には刺さず小さく成形してからハンバーグのように冷凍すると便利よ」と教えてくれたことがある。ああ、また食文化が融合して新しいものが生まれている、と胸が高鳴った。

これからの抱負を少々

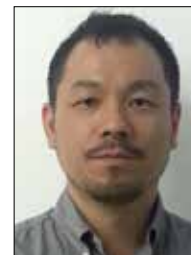
今後、ブラジルで出会ったこれらのアラブ料理をイベントなどで召し上がっていただいたり、日本で手軽に作れるようアレンジしご紹介する活動もしたいと思っている。

世界は食で繋がっている。もっと知りたい、学びたい、そして伝えたい。私はいつもこの感情のループにハマり、のめり込んでいくのである。



カフタ▶

Hiroshima Bossa Open Cafe 音楽で広島と伯国つなぐ 珈琲、移民、平和などテーマに



堀江剛史
(広島日伯協会理事)

川の町広島

広島は市内に6本の川が流れる「川の町」である。広島デルタは干拓を繰り返してできており、潮の満ち干は最大4メートルもある。舟運が中心だった時代、荷下ろしに適した階段状の「雁木」が河岸のあちこちに作られた。川辺が山や海とつなぐ表玄関という歴史もあってか、コンクリートで固めたいかめしい護岸は少なく川まで下りられる場所が多い。

そんな全国的に珍しい川の文化を、ただの風景としか感じていない市民の認識を変えようと川辺でのイベントを手がけたことがきっかけとなり、「River Do! 基町川辺コンソーシアム」(<https://www.river-do.how>) という団体で、川辺空間の活性化を担うこととなった。

私を含むコアメンバーの目的は「広島に新たな風景をつくる」というものだ。広島=原爆&厳島神社という固まったイメージに一石を投じたいという思いも大きい。

委託された場所は原爆投下の目標となったT字型の相生橋のたもとで、原爆ドームを望む。世界中の人が祈りに来る場での新たな風景づくり。そこに長年暮らした「ブラジル」を潜り込ませられないか、というのが私の密かなテーマでもあった。

カフェブラジルが平和公園に!?

街中に溢れるカフェ店内に流れるのはほぼボサノヴァである。ご存知「イバネマの娘」を作ったのはアントニオ・カルロス・ジョビン。作詞はヴィニシウス・デ・モラエス。

ブラジルにいる頃、広島出身だということ「Rosa de Hiroshimaのヒロシマか!？」と幾度も言われたことを思い出す。モラエスが73年に作詞したこの曲は前年リオにブラジル初原爆ができたことに対する反核ソングとして生まれ、教科書に載ったことからよく知られているという。87年には医療放射線事故があり、「国際ウラン映画祭」があり、在外被爆者活動もあった。広島の人にそんなことを何かの形で伝えられないかとも思っていた。

そんなおり、現在の平和公園の地にあった「カフェブラジル」(1935年に閉店)を思い出した。水野龍が先鞭をつけた大正時代の珈

琲ブームに乗ったものであろう。戦前も人々はコーヒー片手に憩いの時間を持っていたのだ。爆心地に限りなく近いこの川辺でそのひとときを1日だけ出現させられないか。流れるのはもちろんボサノヴァだ。ブラジルで広島の名を冠した曲が親しまれており平和への思いで繋がっている。時代を越えて珈琲片手に音楽を楽しむ。それは新しい平和発信にもなる一。

そんなこじつけに近いジグソーパズルが頭の中で組み立てられた。イベント名は「Hiroshima Bossa Open Cafe」だ!

つながる音楽、食、移民、SDGs

早速、コロナ禍で活躍の場を奪われウズウズしている音楽家たちに投げかけるといち早く反応してくれた。こちらの思いを汲み取り、いくつかのボサノヴァグループが結成された。

ステージは緑と黄色に染めた。ポルトガル語が流れる広島の川。その上流の中国山地からは多くの移民(笠戸丸移民もだ)が海を渡った。後援となった広島日伯協会の写真パネルで移民の歴史も伝えた。

ムケッカやマンジョッカのフライ、アサイー、シュラスコも関心を呼んだ。当日はボサノヴァというより、サンバといった陽気で、川だけでなく空もブラジルと繋がっているようだった。

知人がRicoという代替コーヒーの販売・試飲を行った。Rice Coffeeの略なのだが、ポルトガル語の意味とをかけている。需要と供給のバランスが崩れかけている今、環境や栽培地の労働環境に心を寄せる人たちの間で代替品づくりが盛んなのだという。

サンパウロ州マリリア市と姉妹提携してい



バックを川にしたブラジルカラーのステージ、マルシェが川辺を彩った

る東広島市の古米とブラジル産コーヒーを混合した地球に優しい商品。かつて森林を伐採して多くの日本移民が栽培に携わったコーヒー。今、広島の若者が小さな、しかし心ある取り組みをしていることにグッとくるものがあった。

ボサノヴァは死語?

この企画が動き出した頃、多くの人にその趣旨と背景を語りつつも、若い世代の反応が鈍いことに気がついた。どうやらボサノヴァという音楽ジャンルそのものを知らないようなのだ。「イバネマの娘」をスマホで聞かせるように「聞いたこともない」。ブラジルでは60年代のわずかなブームで、日本の定着ぶりが異常だと思っていたのだが、すでに次の時代にきていたのだ。

ただ、ボサノヴァという言葉はそもそも造語で、「新しい感覚、傾向」という意味である。広島の川辺でブラジルをモチーフにした新しい動きを作っているのだ。そう考えればボサノヴァを声高に語るのもおかしくはないだろう。公式サイト(<http://hiroshimabossa.com>)には、広島の歴史にも触れたポルトガル語ページもつくった。私がブラジルにいた際、常に感じていた日系の皆さんの日本への片思いに込められればという思いもある。

ブラジルにおける 日本語教育の現場から



肥田文子
(日本語教師)

海外の日本語学習者

海外に何人位の日本語学習者がいるのだろうか？ 海外 147 力国の中高教育機関の日本語学習者数は約 400 万人。アジアだけで約 300 万人いる。南米は約 4 万 2000 人、ブラジルは約 2 万 6000 人である。学習者数が一番多い国は中国で約 100 万 5000 人、ブラジルは 13 番目である。(国際交流基金 2018 年調査)

サンパウロ州ボツカツ市

私は、サンパウロ市から西北に 230km 内陸の人口約 15 万人のボツカツ市に住む日本語教師、戦後の長野県生まれで東京港区で育ち、家は日本語学校に通うドイツ人留学生が家族と一緒に住み日常的に日本語を教える環境であった。大学(美術科日本画)を卒業後 1972 年ブラジル日系二世医師と結婚。医科大学のあるボツカツ市に移り住み、私の 4 人の息子と友人に日本語を教えていたので、保護者から日本語教師になることは自然の成り行きであった。海外に住む日本人にとって母親が母語で子供と会話ができることは重要である。自宅で、日系二、三世に個人、超複式、通信教育で教え、墨絵と茶道を体験学習とした。公文日本語教室としては 10 数年続けていた。



継承日本語教育とコロナ禍

数年前から孫の継承日本語教育に力を入れる方針に変更。毎週末、遠方に住む学齢期前の孫に会いに行き、他州に住む孫には月 1 週間生活を共にし日本語だけで接していた。孫達が私と日本語を話し始めたときに、パンデミックになり、なんと悔しい思いをし焦った。ビデオコールで、日本語で話しかけるが徐々に反応が鈍くなる。幼稚園で英語教育を受けている孫は、私がポルトガル語を理解しないと信じて、英語で返事をするのには驚いた。私は、サンパウロの日系本屋から、時々、CD 付の読み聞かせ絵本や童謡などを郵送した。

コロナ禍に突入！ 2020 年 3 月にサンパウロ州政府は緊急事態宣言を発表、厳しい規制。家族と相談して郊外の自宅で夫婦 2 人の巣籠もり田舎暮らしを決定。初めの数ヶ月は周辺地域や隣人で、感染者、入院、死亡者が出て、かなり緊張する日が続いたのである。ご近



所の若い人たちの高齢者に対する暖かい種々の協力は今も継続し、ブラジルのよさを感じる感謝の毎日である。

オンライン全伯日本語研修会

コロナ禍の中、ブラジル日本語センター(CBLJ)は、2020 年と 2021 年の 7 月にオンライン全伯日本語教師研修会を開催、会員、非会員共に参加費無料、海外からの参加者もあり有意義な研修会になった。研修会後に、若い教師によって国境を越えたオンライン交流会、勉強会が発足、PC 操作も丁寧に教えるという細かい配慮があり、学びと情報交換ができた。CBLJ、国際交流基金、JICA、バイリンガル・マルチリンガル・子どもネット研究会(BMCN、継承語と現地語の次世代グローバル人材育成が目的)、日本ブラジル中央協会、海外日系人大会、海外就労者情報援護センター(CIATE)日本文化福祉協会、援護協会の講演会、シンポジウムに、オンラインで参加した。2020 年 BMCN 国際フォーラムは 42 力国から 1000 人を超える参加登録(ブラジルからの参加は 30 人以上)があり、世界 6 地域、15 力国の日本語教育について、22 人の教師が発表した。日本語教育の推進に関する法律が 2020 年 6 月に成立、その法案の内容についての詳しい話しがあった。カナダの教師が、「日本語教育推進法の閣議決定には涙が出るほど嬉しかった」と言った時は、私も感動した。海外在住の保護者から日本語教師になった多くの人が同じ思いをしたであろう。2021 年の年次大会では約 500 人の参加登録があり北欧 4 力国、米国、カナダからの発表には、教師のエネルギーを感じた。日本語教育関係の研修会、講演会等に参加して、年々、国籍不明のカタカナ語が多くなるのには驚きと共に疑問を感じる。

オンライン授業の功罪

パンデミックになった直後、オンライン授業はすべてが解決できる方法だと思ったが、学齢期前の子供には無理だった。語学教育は対面授業が基本だと確信。

コロナ禍で休校になった孫は親と共に日本語を考える余裕はなかったようだ。私は息子夫婦に日本語教育推進法について説明し、対面授業になった時のために、教師ネットワークを利用して、孫のために日本語母語話者の家庭教師をさがした。対面授業が可能になった 2021 年 9 月から、孫は家庭教師と日本語を喜んで学んでいる。幼稚園で多民族、多言語、多文化共生の教育を受けていて、日本語を学ぶ意欲が強く、学齢期前から葡語、英語、日本語 3ヶ国語環境が実現した。私の息子世代の教育には、外国語教育禁止時代の影響があったと感じる。

「継続は力なり」自学自習の力をつけて、日本語を継続して学んでほしい。

叩き上げの日本人が模索する 「ブラジルでの経営の形」

倉智隆昌
(BBBR グループ CEO)



新天地での挑戦

113 年前の笠戸丸から始まった移民政策や、入管法改正による 1990 年代の日系ブラジル人の出稼ぎラッシュなど、地理的に最も遠い位置にありながら歴史上で重要な関わりを持ち、日本とブラジルは「遠くて近い国」と比喻された。両国はその後、文化的な交流を深め、現在ブラジルでは日系四世・五世の世代となりながらも、日本の精神性や文化に対してロマンティックな思いを馳せる日系人や非日系の親日家は後を絶たない。私は彼らとは違い日本で生まれ育ち、また彼らとは逆にブラジルの大地に思いを馳せた日本人一世である。

2004 年、21 歳の時に私はブラジルへ渡った。移住目的の渡航であり、海を渡った理由として、「窮屈な日本が肌に合わずブラジルの雄大さに惹かれたこと」、「16 歳の時に実家が倒産して家や財産を失い新たな新天地を求めたこと」、「新興国独自の過剰なエネルギーを欲したこと」などが挙げられる。当時のブラジルは BRICK の一角として注目を集めており、私は若さゆえ精神的な開放を目的として渡航したが、国としての経済的な将来性も少なからず意識していた。

この 17 年間、現地で様々なビジネスにチャレンジしては失敗を繰り返してきたが、それら失敗から学び、8 年ほど前に日伯間の ODA コンサルティング事業にて独立することができた。その後、南米産の食材を日本に輸出する事業や、豚骨ラーメンを主軸とする飲食店「一幸舎」と麺と餃子の開発兼卸工場である「慶史」など、現在 4 社を経営している。いずれも「食」をテーマに、日本とブラジルを繋ぐというミッションのもと事業を展開している。

ハートな経営者ライフ

観光や雇用される側の立場では、ブラジルはまさに住めば都。治安の悪さや生活インフラの不備に不満は残るが、気候よし・食事よし・人よしの愛すべき親日国である。

しかし、実際に起業してビジネスシーンに躍り出るとそうはいかず、様々な難関や苦労を味わうことになる。リアル通貨のリスク、多民族国家ゆえの幅広いニーズ、所得格差によるターゲティングの難しさ、ヨーロッパ移民から形成されたコンサバティブな商習慣、広大な国土による流通コスト、多数の労働裁判、高い許認可取得のハードル、重く複雑に絡み合う税金等、現地でのビジネスを通じて様々なことを勉強してきた。

その中でも特にブラジルの“拝金主義”が起業家に大きくクリティカルにのしかかる。これは既得権益が彼らの利益を守るためのルール作りをしてきたことに起因するが、他にも日本人が持つコンテンツやバリューでビジネスをしようとする、どうしてもアッパー層へのアプローチとなり、イニシャルコストが高くなるという側面がある。数千万円のキャピタルではどうしても中途半端な事業となってしまう、スケール

アウトできず、また大きな利益も残せない。一個人で 1 億円の資本金を集めるのは至難である。

次に行政機関、サプライヤー、従業員など、全てがブラジル独自のリズムで動いており、きめ細かい我々日本人のビジネス習慣はマイノリティーとして拒否される。行政機関は内部に独自のコネクションを持ち、サプライヤーは相手がエクスキューズできない状況で交渉し、従業員は経験に裏打ちされたフィロソフィーでまとめ上げることができないと、ブラジルではビジネスが前進しない。

従業員ありきの経営

前述した中でも、「ブラジル人の従業員をいかにまとめるか」ということが経営に直結する大事なファクターである。日本とは異なる環境と文化で育ち、異なる信条で生きている人たちを理解し、まとめ上げるのは簡単なことではない。私は従業員をまとめる為に、「人はなぜ働くのか？」というシンプルな理由を説き伏せるという方法を取った。

私は、人が働く理由を三つに分けて定義しており、一つ目は「収入を上げる為」である。これは資本主義社会で生きている上で非常に分かりやすい。二つ目は「技術と経験を上げる為」である。仕事を通じて人生にプラスとなる技術と経験を習得するということ、これも分かりやすい。三つ目は「心を高める為」である。これは日々の生活の中で起こり得る問題は、自分自身に原因があり呼び寄せていることであり、エクスキューズせず乗り越えれば、必ず人間的成長が待っているという考え方である。他責にして逃げ出せば、必ずまた別の場所で別のタイミングで同じ問題が顔を出す。職場という環境を利用して、私たちは心を高め、人間的成長を目指す為に仕事をしているのである。

ブラジルで独立し経営者となったことで最も良かったことは、私たちの商品やサービスを待つマーケットに、バリューを提供できたこと、苦難を乗り越え人間的に成長できたことである。人間としても経営者としても未だ半人前だが、これからも日本とブラジルを繋げる為に、「理念と使命」そして「ビジョンと情熱」を持ち、一生懸命邁進していきたいと思う。



生産拡大と環境保全という相反する課題に 挑戦するブラジルアグリビジネス 環境保全に係る 法制度からの視点

1. 環境保全を取り巻く状況

大豆、トウモロコシ、牛肉などの農作物の生産拡大が著しいブラジル農業は、近年、欧米から森林伐採を伴った開発であるとして厳しい目が向けられている。ブラジル国内メディアにおいても、違法伐採が近年増加傾向にあることを示すデータが大きく取り上げられ、違法な森林伐採を容認するような姿勢を示すボルソナーロ大統領に対する批判が強まっている。

そのような状況下で、ボルソナーロ政権は、経済発展と環境保護の両立の方針を国内外に強く主張し、2021年10月31日から11月12日まで英国で開催されていた国連気候変動枠組み条約第26回締結国会議（COP26）において、2028年までに違法な森林破壊をゼロにし、2030年までの温室効果ガス排出量削減を43%から50%に引き上げるなど、新たな目標を公表した。

森林破壊に関しては、後述のとおり、2012年に施行された新森林法（2012年法12,651号。一般的にNovo Código Florestalと言われている）により、環境保全が図られているが、アマゾンなどの地域における森林伐採の94%は違法であるとするブラジルの環境団体の調査結果（2021年5月発表）があるなど、実際の取り組みには多くの課題があると言わざるを得ない。

このように難しい舵取りを求められるブラジルアグリビジネスではあるが、違法森林伐採対策・脱炭素・サステナブル農業等を後押しする様々な法制度の整備が近年進んでいる。本稿ではいわゆるグリーンビジネスに繋がり得る法制度をいくつか紹介する。

2. グリーンビジネスに繋がり得る法制度

(1) 新森林法

新森林法は、経済開発と森林資源保護の両立を目的としており、2008年7月以前の永久保護区域（Áreas de Preservação Permanente）などの開拓については責任を追究しない見返りにその復元などの義務を課しているほか、農地環境登録（CAR：Cadastro Ambiental Rural）による農地開発状況の合法性の登録を義務付けている。農業生産者は、農地環境登録を行わない限り、公的な融資制度などの利用ができないという不利益を受けるほか、民間企業もかかる登録証の提示を取引の条件とする傾向が高まっている。一方、新森林法は、環境保全を促進するためのインセンティブ制度の創設を行政府に委譲し、それに基づき、後述のFloresta +などが開始されている。

(2) 脱化石燃料・バイオエタノール促進政策「RenovaBio」



柏 健吾
(TMI総合法律事務所
日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)



林 瑞穂
(農林水産省
農林水産政策研究所
主任研究官)



吹田三奈斗
(三井物産㈱
法務部
(サンパウロ駐在中))

RenovaBioは、パリ協定履行のために、2017年に策定されたバイオ燃料市場の拡大促進政策であり、①燃料配給業者に対し、年毎に定める比率での二酸化炭素（CO2）排出削減を義務付け、その推進ツールとして②CBio（脱炭素クレジット）の導入を定めた2本柱で構成されている。CBioは、新森林法を遵守しているバイオ燃料製造者等が発行でき、削減義務を負っている事業者は、CBioの購入によって販売する化石燃料のCO2排出量と相殺できる。CBioは、2020年4月にブラジル証券取引所（B3）にて売買が開始された。

(3) アグリビジネスに関わる金融メカニズム促進策

「新アグリ法（Nova Lei do Agro）」

2020年4月に、ブラジルアグリビジネスが国内外のキャピタルマーケットにとって魅力的なものとなることを企図した新アグリ法（2020年法13,986号）が施行された。一例として、農業生産者が発行する農作物証券（CPR）の制度変更が挙げられる。これまで、外貨建てのCPR発行や、CPRの担保として外国企業に対して農地の譲渡担保を設定することができなかったが、これらの制約が緩和され、有価証券としてのCPRの使い勝手が向上した。また、このCPRは、森林保全・回復に従事している事業者が資金調達の手法として利用できるようになった。この制度変更を軸に、2021年10月暫定措置法10,828号によって、一般的にCPR Verde（グリーンCPR）と呼ばれる環境保全を資金使途とするCPR発行が制度化された。

(4) 森林保護促進策「Floresta +」

森林保全業務の従事者に対する適正な報酬の支払いを定めた本制度は、2021年1月に開始されたばかりであり、具体的な細則が未定であるが、インディオ先住民や中小零細の農業生産者の自立支援と持続可能な森林保護の実現が期待される。これにより、自然植生を所有・保全する事業者の資産の収益化と共に、先述のCPR Verdeや、近年国際金融の世界で注目されているGreen Bond等の金融メカニズムの進展も見込まれる。

3. 今後の展望

以上、ブラジルアグリビジネスが関係する環境保全に資する法制度について概観したが、ブラジル政府は、税制インセンティブや資金調達のメカニズムを活用することで、制度が機能することを狙っているものと考えられる。これは、COP26にて、ブラジル政府が、ブラジル農業部門における気候変動への対策として、低炭素農業を推進する融資プログラム「Plano ABC+」を挙げたことから推察できる。

今後、ブラジル政府がいかに生産拡大と環境保全の両立に向けた制度的な取組みを行っていくのか、また、欧米に代表される国際社会とどのように共存していくのか注目していきたい。

マナウス・フリーゾーン (Zona Franca de Manaus)



マルコ・フルタード
(KPMG ブラジル
北部及び北東部
タックスダイレクター)



三上智大
(KPMG
サンパウロ事務所
マネージャー)



天野義仁
(KPMG
ジャパン
南米統括責任者)

マナウス・フリーゾーン（以下、ZFM）は、1957年に自由貿易地域として誕生した。1967年に制定された法令第288/67号では、マナウス地域の経済発展を可能にするための条件を備えた工業拠点、商業拠点、農業拠点の中心地として定義している。

最近の ZFM 動向

2021年1月～9月のZFMのマナウス工業拠点（PIM）の売上高は1,165.9億BRLと、売上高が4年連続で前年同期と比較して増加している。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
PIM・1-9月 売上高(億BRL)	588.9	689.6	759.4	819.5	1,165.9
成長率(%)	—	17.1	10.1	7.9	42.2

PIMの全売上高の27.37%を占めるIT関連機器分野の成長が牽引しており、ここ数ヶ月における10万人以上の直接雇用の維持、『SUFRAMA（マナウス・フリーゾーン監督庁）』で承認された投資プロジェクトも増加（2020年146件、2021年11月17日時点156件）していることから、「ZFMの産業にとって今は非常にポジティブな時期」というSUFRAMA責任者のAlgacir Polsinの発言も今般公表された。

また、2021年10月のSUFRAMA理事会にて、今後3年間で大手情報技術企業のデジタル携帯電話生産ラインの拡張及び更新を中心に79.5億BRLの新規投資及び1,409人の新規雇用創出を見込んでいる31の産業及びサービスプロジェクトに係る新規工場の建設及び生産ラインの拡張が承認された。

SUFRAMAは、地域開発経済のモデルとしてZFMを管理し、地域住民の生活の質を追求する役割を担っている。ZFMの財政政策は、他の地域とは異なり、企業に税制上の優遇措置を提供しているが、その内容は開発される事業の種類によって異なる。今後もポジティブなZFMの状況が見込まれており、改めてZFMにおける税制優遇措置について紹介したい。

連邦税制優遇措置

企業は以下のような税制優遇措置を利用することができる。ただし、SUFRAMAによる認可、基礎製造工程基準（PPB）の適合等、税制優遇措置を享受するための一定条件が必要となる。

輸入税 (II)：基本的なルールでは、企業は、最終製品のZFM域外の出荷段階まで繰り延べて輸入税の88%までの減免を受けた輸入税を支払うことができる。特定のケースでは、輸入税の減免は、最終製品が製造されるまでの過程における当地での作業分担と労働力の利用のレベルに応じて決定されることとなる。ただし、ZFMで製造した製品を輸出、又は製品がZFM地域内において消費、及び製造過程で使用されるときにも、一定の条件を満たした場合に限り、輸入税の免除も想定されている。

工業製品税 (IPI)：ZFM内で消費、及び製造過程で使用される製品に

係るIPIは免除される。いくつかのケースでは、企業は総収入の一定割合を、研究開発プロジェクトに投資しなければならない。

法人の売上高に対する社会統合基金及び社会負担金 (PIS/COFINS)：これらに対しては、以下3点の恩典が与えられている。

i. 一般的な規則では、輸入取引に対するPIS/COFINSは、商製品及びサービスの輸入に対して課税されるが、ZFMに所在する輸入者に対するこれらの課税は停止されている。

ii. ZFM内での原材料、仲介及び包材の販売による売上は、売り手及び買い手共にZFM内に所在するとともに、それらがMFTZ内での製品製造過程に使用される場合に、PIS/COFINSの税率がゼロになる。

iii. 購入者に課せられている税制にも依るが、ZFM内で製造された製品の販売によって得られた売上に対し、低減されたPIS/COFINSの税率が適用される（大半は3.65%）。

法人所得税 (IRPJ)：ZFMに所在する企業で、アマゾン開発監督庁（SUDAM）の優先分野に沿った分割・拡張・近代化・多様化のプロジェクトを2023年12月31日までに提出・承認された法人に対しては、法人所得税の最大75%減税の優遇措置を申請することができる。当該優遇措置の適用期間は10年である。

アマゾナス州税制優遇措置

アマゾナス州の税制優遇政策については、州法2,826/03にて規定され、州法23,994/03にて規制されている。これは、1988年の連邦憲法、アマゾナス州憲法、及び連邦法に基づいて制定されたもので、ICMS支払いの免除、算定基礎額の削減、及び支払い期限の延長を目的としている。

また、生産チェーンの密度を高める重要な手段として、最終製品の生産を統合する、あまり精巧ではない産業部品である中間財の生産に強いインセンティブが与えられ、生産コストの削減、利用可能な労働力やその他の資源の有効活用を意味している。

商品流通サービス税 (ICMS)：企業は以下のような税制優遇措置を利用することができる。ただし、開発審議会（CODAM）の認可等、税制優遇措置を享受するための一定条件が必要となる。

i. ICMS Stimulus Credit: 納税額を軽減するもので、商品によっては55%～100%の軽減。

ii. 原材料や副資材を外国から輸入する場合の税金の繰延べ。州内の他のインセンティブを受けた産業からのインプットを使用するために中間財を生産する場合の税金の繰延べ。

iii. 生産工程で直接使用する機械・設備の取得に伴う税免除。

iv. 外国の原材料や副資材の輸入におけるICMSの計算基準を55%から85%まで引き下げる。

ZFMからサンパウロをはじめとした各消費地までは遠く、輸送コスト等ロジスティックをめぐる課題は多いものの、過去と比較してPIMの売上高及びZFMからの輸出高が増加傾向にあり、今後においてもSUFRAMAで承認された投資プロジェクトが増加傾向にあることから、改めて各企業によるZFMの活用を期待したいところである。

出典：SUFRAMA, Guia de Incentivos Fiscais da Zona Franca de Manaus

教え教わり一期一会(後篇) コロナ禍で深まるブラジルとの絆



KTa ☆ brasil(ケイタブラジル)
(プレゼンター・講師・ミュージシャン)

1997年に始まった小生のブラジルでの各活動。コロナ禍に大打撃を受け座礁中だが「ブラジルとの絆」に感動し、救われる思いだ。長年のご縁から、日本はもとより、ブラジルのTV各局が小生の特集、ネット生中継番組出演、小生にフォーカスした映画やドキュメンタリー番組のTV公開、また学校や教育機関での指導や登壇オファーが続いている。FOX、ESPN、UOL (Folha de S.Paulo)、ブラジルサッカー連盟 CBF 公式 COPA DO BRASIL 番組(昨年は外国人ながら最優秀トルセドールに番組が選出)や VASCO TV 他で、お恥ずかしい事に小生のブラジルとの人生、その関係と実績が次々に特集公開された。

2019年リオデジャネイロ国際映画祭公式作品で、世界各地で公開された映画「30 Dias - Um carnaval entre a alegria e a desilusão」Valmir Moratelli 監督作の1シーン。リオの選抜打楽器隊ベテランメンバーとして単独インタビュー・テロップ付きで紹介され、2021年にTV初公開がされると、ブラジルから反響をいただき驚いた。一方、ブラジルを代表するドキュメンタリー作品監督:Roberto Berliner氏(東京国際映画祭をはじめ、世界各地の映画祭でグランプリを受賞)による、1997年から続くロングラン音楽ドキュメンタリーTV番組シリーズ「Som da Rua」にて、小生のブラジルでの活動を追った特集が2021年12月から放映が開始され、内外より反響をいただいている。ブラジルの大手メディアで改めて次々に紹介、評価いただくと共に、小生のこれまでの活動が同国で驚かれ、喜ばれ、「ブラジルを元気づけている」と言われ、累計数万人からSNSを通じたDMを拝受した。コロナ禍で帰国を余儀なくされ、失職し、自信を失う中、強く励まされた。

音楽家やプレゼンターとして活動するだけでなく、実は同時に20余年、ブラジルに関わる「日本・ブラジル・第三国政府事業」、「日本、ブラジル、第三国の国際企業や団体での任務」をブラジルや日本、そして第三国に招集され担当して来た。伯国の文化・歴史・社会情勢を20年以上、伝え続けて来た活動も、ブラジルで注目され始め、身が引き締まる思いだ。

コロナ禍の緊急帰国以降も、日本のメディアや舞台にて、「ブラジル現地で活動し、学び、習得した経験やスキル、ノウハウを一次情報から伝える活動」を継続させていただいている。LIVE演奏、作品参加、番組出演、寄稿、公式認定指導者としてのレクチャー、そして幼稚園〜中学、高校での指導や登壇、展示などだ。一方、ブラジルからはリオ州各地の公立、私立中学校からオファーをいただき、ネット動画生中継での授業にゲスト登壇を重ね、反響と手応えを得た。教えているかのようで、若者の純粋で鋭い質問からハッとさせられ、教わる事、気づかされる事、考えさせられる事が多い。若者を見くびらない、知った・分かった・出来ているつもりになら

ない、そんな大人でなければと思い知らされている。

「JICA(国際協力機構)史上初のブラジル展」に「Viver!」ブラジルと一緒に」と命名、コンセプトから制作させていただいた。小生がリオ市公式写真家として撮影した写真、現場動画、説明文パネルによる展示を3ヶ月行い、講師として登壇した。多くの一般見学者からご反響をいただき、毎日新聞、中日新聞、東海ラジオ、ZIP-FM などに取り上げていただく事が出来た。本展示の見学が小学校〜大学まで各教育機関の社会科見学授業や研究対象とされた。「在日日系ブラジル人社会30周年」を小生が取り上げたハーバービジネス/Yahoo! ニュース他掲載の記事とも連動。在日日系ブラジル人社会、そしてブラジル本国からも反響があり、日伯交流と相互理解に繋がられた実感を得た。中でも、小生が20年所属するサンバの本場リオの名門 Império Serrano だけでなく、Tijuca、Beija-Flor 他や有名 Samba メディアからもご紹介と反響をいただいた。さらに Mocidade Independente と Salgueiro からは演奏動画のオファー→それが各公式 Twitter で公開→フォローが「353.8万人」もいるブラジルの有名人 Marcelo Adnet や Teresa Cristina 等にも紹介され話題となった。

お陰で2019年Nikonプラザ、2020-21年JICAでの作品展示がご好評をいただき、2022年に東京・表参道での展示が決定した。現在、準備を進めさせていただいているが、もっと日本各地で皆さんにお見せ出来たら、登壇出来たらと、小生の力の及ばなさに、歯痒い思いだ。

駐日ブラジル大使館からは公式動画音楽番組のMCオファーをいただき、大使館公式YouTube、facebookページ、instagramで同時公開・アーカイブ化された。稚拙ながら、全てポルトガル語でMCを行った事で、ブラジルやポルトガル語圏など第三国からも閲覧と、メッセージを多数頂くことが出来た。

伯国のメディアによる小生の特集リレーは、連鎖の渦中だ。Jリーグで長年活躍し、MPVや多数受賞をした元ブラジル代表 Bismarck 選手との対談番組も実現した。リオの名門 C.R.Vasco da Gama の若きエースから、ヴェルディ川崎(現東京)に電撃移籍した同氏との1993年日本での出会い〜歴代ブラジル人選手との友情や日本の話題で盛り上がった。同VASCOは当初ポルトガル系民のクラブとして、リオがポルトガルの首都であったからこそ創立された。今年の123周年特番でもご紹介にあずかり、同ポルトガル系騎士団会より受賞、正式認定序列がされた。TV GLOBOでオバマ米元大統領初の公式ブラジル訪問と共にご紹介いただいた3.11被災地支援プロジェクトへの貢献も改めて紹介された。また昨年、「Campeonato Brasileiro」ことサッカー王国ブラジルリーグ1部:公式戦第23節、VascoとCearáの試合生中継放送中、キックオフ直前に両チーム選手(東京五輪金メダリストVASCOの3名を含む)や審判団が、小生の母の訃報に対し、一分間の黙祷を捧げて下さるといふ一幕があった。驚きと共に感涙した。大航海時代の先駆者精神を継承する彼らだが、その計らいに懐の深さ、ブラジルとの絆を感じずにはいられない。

ブラジルに戻る仕事を模索中の小生だが、これからの世代に、ブラジルとの絆を繋いで行ければ幸いだ。



映画「30 DIAS」放映シーンより



▲ドキュメンタリーの画像



中村友美
(元観光通訳ガイド)

私のポルトガル語ガイド体験

2019年春まで、ポルトガル語のインバウンド観光ガイドとして働いていた。通算9年ほどの二度にわたるガイド生活。客の大半は、ブラジル人であった。

最初のガイド時代は1980年代前半のこと、私は20代の終わりであった。当時ブラジルからの観光客は少なく、私の客は主に白人富裕層だった。日本についてよく知らずのんびりと異国情緒を味わいたいだけという人ばかり。仏教と神道の区別がつかないで、生魚はまず口にできなかった。

そんな彼らを相手に、私は若さの勢いで、ただ懸命に働いた。じっくり考えたり反省したりする余裕はなかったものの、刺激的で充実した日々であった。

1985年秋、円高等の要因により、ブラジルからの客が途絶えた。仕事がなくなった私は会社員に転職。以後25年間、ポルトガル語とは無縁の生活を送ることに。ガイドに復帰したのは、2012年暮れFIFAクラブワールドカップの折であった。

戻ってみると、外人旅行市場の状況は大きく変貌してい

た。ブラジル人観光客は著しく増え、ポルトガル語のガイドは足りないくらい。客の種類も非常に多様化していた。日系ブラジル人、中間層も多数来日、中には日本に深い関心と知識を持つ人も混じっていた。その様な情況下、私はガイドの仕事を再開。しばらくはさびついた我がポルトガル語の再研磨に苦闘しつつ、自分なりのガイドの仕方を築こうと、暗中模索する日々であった。

幸い仕事はコンスタントに入り、その後もガイドを続けることができた。親しいガイド仲間にも恵まれたことも有難い幸運だった。自分なりのスタイルが確立し、マイペースで仕事ができるようになったと実感したのは復帰3年目くらいのこと。そこまで行くのに時間はかかったが、確固とした自信がついていた。

ガイドの仕事を通じて、私は日本に居ながら異文化直接体験をすることができた。この体験で私の精神世界は広がったと思う。そしてこの体験に導いてくれたポルトガル語をやっておいて、実によかったとも思う。

ジャーナリストの旅路

ブラジルとメキシコをつなぐ日系の縁

宮本英威
(日本経済新聞社サンパウロ支局長)

中南米の2大国といえば、経済規模ではブラジルとメキシコとなる。だがこの両国、中南米のほぼ両端に位置しているためなのか、意外に接点は少ない。生活に身近なところでは、アエロメヒコに乗るとエンブラエルの機体だと気がつき、通信王カルロス・スリム氏のアメリカ・モビル傘下のクラロがブラジルで携帯大手の一角を占めている、といったところだろうか。

新型コロナウイルスの感染が深刻になりだした2020年4月から1年半駐在したメキシコで、対面取材した数少ない相手の1人はブラジル人だった。元メジャーリーガーのパウロ・オルランド外野手(36歳)だ。

ブラジル出身者として3人目の米大リーグ機構(MLB)選手で、カンザスシティ・ロイヤルズに所属していた15年には主力選手の1人としてワールドシリーズを制覇した。20年からはメキシコリーグに移り、21年は大西洋岸の港町ベラクルスのアギラで3番打者として活躍した。

11歳の時に母親が働いていた病院の日系人医師に誘われて野球を始めた。当初はテニスとの違いさえ分からなかった。空に高く舞い上がった「フライをつかむのが好きだった」といい、徐々に競技にのめり込む。「五輪にも出場できたかも」というほど、陸上短距離の選手としても有望だったが、05

年にシカゴ・ホワイトソックスと契約を決めた。

メジャー昇格までは時間がかかった。マイナーでくすぶっていた14年には韓国からの好条件の誘いに心は揺れた。妻の反対で米国にとどまり、直後のシーズンでメジャー昇格が決まった。「才能はあるのにメジャーにたどり着けない選手をたくさん見てきた。日系人に規律を習ったからこそ、諦めないで頑張れた」と振り返る。雨でグラウンドが使えなくても、屋根のある場所で訓練したブラジル時代を良く思い出した。

当時の仲間とは今でも交流がある。21年7月の取材の際には、ワッツアップのグループに投稿された仲間たちの動画を、うれしそうに見せてくれた。

ブラジルでは日系人が野球を各地で広げてきた。ヤクルトの野球学校(サンパウロ州イビウナ)で技術を磨き、投手として初めてメジャーに昇格したアンドレ・リエンソ投手や今後メジャー昇格を目指す複数の選手もメキシコでプレーしている。ブラジルではプロリーグがない現状では、高校生の年代以降は、他国に活躍の場を移すのが現実的な選択肢だ。これまでメジャーには5人が昇格した。よりレベルの高い米国や日本での活躍はもちろん、メキシコリーグに挑戦する選手の増加も期待したい。



ブラジル文学アカデミー本部

ブラジル文学アカデミーの新会員をめぐって ちょっとした騒ぎになったのは何故？

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）

11月4日&11日

今年(2021年)11月4日、ブラジル文学アカデミー(ABL)の新会員に女優フェルナンダ・モンテネグロが選出された、と報道されるや、SNS上に賛否両論が飛び交って大きな話題となったが、その1週間後の11月11日、今度はシンガーソングライター、ジルベルト・ジルがもう一人の新会員に選出された。この二人の人選は、片や大ベテラン女優やMPB(ブラジルポピュラー音楽)を革新した黒人ミュージシャンと、これまでABLを実質的に独占してきた白人男性という保守的伝統を打ち破るものであり、多くの文化関係者は歓迎したが、ボルソナロ現大統領を支持する時代錯誤的男性陣からは、「二人共、ボルソナロに批判的な女優と黒人ミュージシャンであり、文学アカデミー会員の前提である作家・文学者でもない、そんな彼らをアカデミー会員に選出するのはおかしい」、とSNSで騒ぎ立てたのだ。

という次第なので、今回は、この辺のABLをめぐる、ちょっとホットな話題を追いかけてみたい。

大女優フェルナンダ・モンテネグロについて

2020年1月号の本欄で彼女の自伝的回想録『プロローグ、芝居、エピソード、回想』について簡単な紹介を行ったが、1998年のベルリン映画祭でグランプリ金熊賞を受賞した名画『セントラル・ステーション』で、リオのセントラル駅で孤児となったジョズエ少年がノルデスチへ父親捜しの旅に出かけるが、彼に付き添った代筆屋ドーラを見事に演じたのがフェルナンダであった。あるいはガルシア・マルケス作品の映画化『コレラの時代の愛』(2007年)で、主人公(ハビエル・バルデム)の母親という鬼婆を凄まじく演じたのもフェルナンダだった、というように芝居、映画、テレビいずれの舞台においても演劇人として時代を画したといえる女優だ。現在92歳。

ジルベルト・ジルについて超要約的に

ブラジル移民100周年の年2008年9月、1万人以上が参集して横浜赤レンガパークで宮沢和史と共演フリーコンサートを行ったジルベルト・ジルの熱唱は実に感動的であったが、彼の作詞・作曲を収録した一巻本“Todas as Letras”(全歌詞)に掲載された数は470である。朋友カエターノ・ヴェローゾと共に1960年代後半のトロピカリヤ革命を嚆矢として50年以上にわたってブラジル音楽界を牽引してきたマルチアーティストも現在80歳だ。

改めてブラジル文学アカデミーとは

17世紀に創設されたフランスの国立学術団体「アカデミー・フランセーズ」をモデルとして、「ポルトガル語とブラジル文学を振興する」目的で1897年リオに設置された、非営利文化団体が「ブラジル文学アカデミー」(略称ABL)で、初代会長は、文

豪マシャード・デ・アシスである。本家と同じく、定員は40名、終身制となっているので、一旦会員になると本人が亡くなるまで終身会員だ。そのため会員は“imortal”(不死の人、名声不朽の人、の意)と呼ばれるのが伝統である。会員が死去する度に、その席(番号付き)に新たに座る新会員が補充されるが、その選出方法は、会員による秘密投票となっている。

現在のABL本部は、ベルサイユ宮殿内にある小トリアノン宮殿(マリー・アントワネットの私的な宮殿)を模した石造建築で、1923年フランス政府から、「ブラジル独立100周年」を記念して寄贈されたものだ。ブラジルの知識層にとっては、あこがれのフランス文明を象徴する建造物であり、その中に40席しかない文学アカデミー会員の特別スペースに入れることは、文学者にとっては、最高の栄誉である。いささか斜に構えた視点からいえば、政治性も含む文学エスタブリッシュメントを象徴しているのが、ABLであるといつてよいだろう。

となれば、ABLにも政治の介入が頻発することになる。会員選出の中立性に疑問符が付けられた最初のケースが、独裁権力者ジェツリオ・ヴァルガスの例だろう。小説も詩集も出したことのない非文学的な政治家が、権力を乱用してABL会員に選出されたのが1941年、実際に就任したのは1943年であった。それに合わせて自分の演説集を何冊も刊行し、自分の文学的著作としたのだった。

女性で初めて会員に選出されたのは、ノルデスチ文学を豊かなものにしたラケル・デ・ケイロス(1910~2003)で1976年のこと。その後、ディナー・ケイロス(1911~1982)、ネリダ・ピニョン(1937~)、リジア・ファグundes・テレス(1923~)、ゼリア・ガタイ(1916~2003)、アナ・マリア・マシャード(1941~)と続いたが、計6名だ。これまでの累計会員数は300名ほどだから、女性選出率はたったの2%だ。

ブラジルの褐色・黒人比率は全人口の50%以上だが、ABLの歴史において黒人会員はほぼゼロ。ムラトであった文豪マシャード・デ・アシスを含め褐色人は3人程度だから、ジルベルト・ジルが実質的には初めての黒人会員だ。人種デモクラシーを国是としているブラジルの文学の殿堂はもっとも“人種民主主義的”ではないことが改めて明らかになった。

人種デモクラシーの実態が、今回また可視化された、と理解するしかない。



フェルナンダ・モンテネグロ



ジルベルト・ジル

● G20 サミット

(1) ボルソナロは10月31日、G20サミットにおける全日程を終了したが、今回のサミットでは伯がG20で孤立していることが浮き彫りとなった。テドロス・WHO事務局長との会談、エルドガン・トルコ大統領との非公式な立ち話、30日の夕食会でのメルケル独首相との非公式な会話(関係者によると、ボルソナロは、「自分はメディアが言うような悪い奴ではない」と同首相に告げた模様)以外は、各国首脳との個別会談が行われることはなかった。また、ボルソナロは、最終日のチャールズ皇太子のスピーチには欠席し、テレビの泉における集合写真の撮影にも参加しなかった。ボルソナロは、サミットの開催期間中、ローマ市内の観光名所を訪れ、支持者と挨拶を交わし、その動画をSNSに投稿した。イタリアのテレビ局とのインタビューにおいては、「ルーラは、ベネズエラの麻薬組織から資金援助を受けている」と批判し、「アマゾン(の森林)は燃えていない」と強調した。尚、散策中のボルソナロに取材を試みたTVグローボのリポーターが警護官から暴行を受け、他の記者達も警護官から突き飛ばされるという事案が発生し、TVグローボと伯報道協会は、ボルソナロに対する非難声明を発表した。(11月1日付コレイオ・ブラジリエンセ及びフォー

リャ・デ・サンパウロ)

(2) 11月1日、ボルソナロは、イタリアのジャーナリストとのインタビューにおいて、「伯国民は自分(ボルソナロ)のことを愛している。伯各地で行われたバイク・デモを見たか? 何万人ものライダーが自分と共にバイクを駆った。次の土曜日でもパラナ州でバイク・デモを実施することにしている。国民は我々に寄り添っている」と述べた。パンデミック・CPIについては「CPIは、政府の弱体化という、政治目的を持っていた。彼らは、自分が先住民や人々を殺したのだ、文書を偽造したのだと告発したが、証拠は何もない。自分は(ワクチン等の)購入に一切関与していない。彼らにとってまずいことに、我々は誠実さをもって統治しており、伯では、この3年間、汚職は一切行われなかった」と発言。

● COP26

11月1日、COP26が開幕。レイテ環境相は、伯が温室効果ガスの排出量を2030年までに50%削減し、2050年までにカーボンニュートラルを達成するとの野心的な目標を表明した。(11月1日付コレイオ・ブラジリエンセ電子版)

キャンパス・コラム

私の「国内ブラジル留学」

岩谷優太郎
(大阪大学4年)

私は2020年11月から兵庫県西宮市にあるブラジル料理店『サンバ・ブラジル』でアルバイトをしている。元々、2021年2月からUSPサンパウロ大学へ交換留学を予定していたが、コロナの影響によりキャンセルとなってしまった。同じような状況の学生も多いのではないだろうか。「留学に行けなくてかわいそう」、「コロナだから仕方ない」。そんな言葉を多くいただいた。それでもブラジルへの憧れは捨てきれず、国内にいながら少しでもブラジルに近い体験をしようと行動した。群馬県や愛知県のブラジルタウンにも行って見たが、結局は卒業まで長く続けられるという理由から、家からほど近い西宮市に行き着いた。

サンバ・ブラジルは、バイーア州出身の陽気な店主が、ほとんど一人で切り盛りしている小さなレストランである。彼は元サッカー選手でブラジル音楽とダンスが大好きという、まさに日本人が持つブラジル人のイメージを体現したかのような人である。またこの店では、お客様もブラジル出身の方が多く、いつも店中でポルトガル語が飛び交っている。ここにブラジル料理と音楽、ダンスが合わさる。それ以外にも言葉では表現できないブラジル人特有の

空気が混じり合い、小さなブラジルが誕生する。

彼らは日本人の私に対しても気さくで、ポルトガル語はもちろんブラジルの文化や価値観までも丁寧に教えてくれる。カイピリーニャの作り方もブラジルの音楽も、ブラジルのお酒の飲み方も、どれも大学ではなくここで学んだことだ。全て大学に閉じこもってでは体験できなかったことであり、サンバ・ブラジルは私の第二の学校になっている。

このように意外にも身近なところにブラジルはある。ブラジルが恋しい人も、ブラジルについてもっと知りたい人も、興味はあるがまだ行ったことがない人も、近くにあるブラジルを探してみしてほしい。そしてもし関西に来ることがあった際には、ぜひ『サンバ・ブラジル西宮』にお越しいただきたい。同店は阪急西宮北口駅から南改札口を出て徒歩4分である。



新刊書 紹介



◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『世界のサラダ図鑑』（佐藤政人著）
米国外ボストン在住の著者による『世界のサンドイッチ図鑑』『世界のスープ図鑑』に次ぐ、見て楽しいサラダ百科全書である。たかがサラダというなかれ。世界には驚きのドレッシングと野菜・果物とのコンビネーションがあることを確認できる。欧米だけでなくアジア、アフリカ、ラテンアメリカから304ものレシピが掲載されているが、ブラジルからは三つのレシピ（①パルミット②コウベ+マンゴ③シュシュ（ハヤトウリ））が紹介されている。
（誠文堂新光社 2021年11月 352頁 税込み2,420円）

『黒人と白人の世界史』（オレリア・ミシェル著、児玉しおり訳）
「科学的には無効であっても、政治的、社会的現実として人種は存在する」と考えるフランスの女性人類学者が、「人種は、欧州人によってどのように生み

出され、正当化されてきたのか」を解明した書である。三部構成（Ⅰ部 奴隷制と帝国、Ⅱ部 ニグロの時代、Ⅲ部 白人の支配）の本書は、ヨーロッパ経済の発展にも政治・経済思想の構築にも植民地主義と大西洋経済が重要であったことを再確認し、あちこちでブラジルに言及し論じている。
（明石書店 2021年10月 374頁 2,700円+税）

『地図でたどる世界交易史』（フィリップ・パーカー著、花田知恵訳）
ヴィジュアルな地図や史料を解説しながら、交易の歴史（古代の交易、中世の交易、大航海時代の交易、交易と革命と帝国主義、工業化時代の交易）を語るユニークな歴史書だ。ブラジル関係では、奴隷貿易、砂糖交易はもちろんだが、世界の大都市の代表としてリオデジャネイロを取り上げている。同市の経済が1808年のポルトガル王室の移転を契機に活気づき、人口も急増していくが港湾都市としての魅力は失われていく事実を冷静に語っている。
（原書房 2021年7月 278頁 3,800円+税）

『コーヒーで読み解くSDGs』（川島良彰・池本幸生・山下加夏著）
「コーヒーを通じてSDGsに貢献でき

る」と確信する、大学教員、コーヒーハンター、元国際NGO職員という三人の共著者が、世界各国の持続可能なコーヒー栽培の“功罪”を調査した成果をテーマ毎に論じている。ブラジルの日系農機具会社JACTOが開発した自走式収穫機「K3」という技術革新についても、コーヒー栽培の環境への負荷、経済性、生物多様性との共存などについても、コーヒーの“光と影”を実に具体的かつ冷静に叙述している。
（ポプラ社 2021年3月 288頁 1,700円+税）

『南米野外料理アサード』（A・ビッターマン他著、青木柁訳）
アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ、ブラジルで伝統的に行われてきたグリルの手法について、ドイツ・スイス・オーストリアの4人の野人的料理人・アサードたちがラテンアメリカ的センスで語り、見せる焼肉グラフィック書だ。アサード職人養成コースに参加した彼らが、「熾火、肉、塩、そして時間の鮮やかな連携プレーがもたらす魔法こそが、このグリル料理の最大の魅力」であることを明示してくれる、野外アサード写真集でもある。
（グラフィック社 2020年7月 224頁 2,900円+税）

!!「ブラジルあれこれ」!!

Café Lamas

1976年、当時1年ほど住んだリオでフラメンゴ地区にあるCafé Lamasというレストランによく行った。最初は、自宅付近を散策する途中で何気なくその店に入った。入り口には、パールのような軽食を食べられるスペースがあるが、奥行きは広くて、立派なサロン風の食堂がある。白の上着にボウタイを着けた年季の入ったウェイターが多く、温かみのある対応が印象的だった。

壁には、多くの写真やポスター類が飾られていたが、ある日、その中に詩人カストロ・アルベス（Castro Alves）の肖像画と彼の詩の一節を額にしたものが掲げられているのに気が付いた。バイア出身の詩人カストロ・アルベスは、奴隷解放を訴える美しい作品を残したブラジルを代表する詩人のひとりだが、大学のサークルで作品集『Os Escravos』や『Espumas Flutuantes』を読んでいたこともあり、カストロ・アルベスもこの店に立ち寄ったんだと思って感動した。そのこともあり、このレストランには土曜日のフェイジョアード・コンプレッタ（feijoada completa）などを目当てにその後何回も通うことになった。

調べてみると、このレストランは、1874年の創業で、もともとラルゴ・ド・マッシャード広場（Rua do Catete, 295 Largo do Machado）にあったが、地下鉄の工事が本格化するのに伴い、1976年にマルケス・デ・アブランテス通り（Rua Marquês de Abrantes, 18）に移転して今に至る。筆者は、当時、移転前のレストランがあったのと同じ通りであり、移転後の店にも近いカテッチ通り（Rua do Catete, 310）

に住んでいた。毎晩、通りを露天掘りで進む地下鉄工事の騒音に悩まされたが、今となってはこの地下鉄体験を懐かしく思い出す。

1874年創業のこの店は、現在営業を続けるブラジル国内のレストランの中では、最も古いとされている。（<https://www.melhoresdestinos.com.br/restaurantes-mais-antigos-brasil.html>）。

ちなみにこのサイトに記載のある残り5軒のレストランは、Restaurante Leite（1882年創業、レシフェ）、Carlino（1881年、サンパウロ）、Rio Minho（1884年、リオ）、Bar Luiz（1887年、リオ）、Gambrinus（1889年、ポルトアレグレ）といずれも時代が帝政から共和制に代わった19世紀末の創業だ。

Café Lamasは、帝政下の首都リオの時代から政治家や作家、芸術家など文化人やボヘミアンのたまり場としても有名な。この店に何かにつけて集い、ジョッキ片手に喧々譁々の議論をすることや常連客を指して、[lamismo]や[lamista]という言葉まで生まれた。常連に名を連ねるのは、Getúlio Vargas（元大統領）、Oswaldo Aranha（元蔵相、外相）、Oscar Niemeyer（建築家）、Manuel Bandeira（詩人）、Monteiro Lobato（作家）、Machado de Assis（作家）、Cândido Portinari（画家）、Sérgio Buarque de Holanda（社会学者）、Noel Rosa（音楽家）という世界的にも著名なすごい面々だ。また、当時の新聞報道によれば、リオを代表するサッカークラブであるフラメンゴやフルミネンセの結成につながる会合もこの店で行われたという。（続く）（MK）

食と化学で未来を拓く

Recrutamento de pessoal brasileiro

正社員募集中

ブラジル出身者歓迎

ブラジル現地法人の代表

もしくは 現地法人担当者として一緒に働きませんか？

現地法人代表 現地でのワイナリー立ちあげ、運営をお願いします。

〔勤務地〕〒564-0054 大阪府吹田市芳野町18番23号 / ブラジル ポルトアレグレ郊外
※入社から半年～1年日本で研修後、代表者としての適性を判断し、ブラジルへ赴任

〔基本給〕350,000円（月給制）年間休日116日 週休2日（土日その他）

〔就業時間〕8:20～16:40（休憩時間60分）〔試用期間〕6～12ヵ月（試用期間中の労働条件 同条件）

現地法人担当 日本国内から現地法人のサポートをお願いします。（ブラジルへの転勤の可能性有）

〔勤務地〕〒564-0054 大阪府吹田市芳野町18番23号

〔基本給〕180,000円～315,510円（月給制）年間休日116日 週休2日（土日その他）

〔就業時間〕8:20～16:40（休憩時間60分）〔試用期間〕6～12ヵ月（試用期間中の労働条件 同条件）



昭和化工株式会社

〒564-0054 大阪府吹田市芳野町18-23

TEL:06-6384-1501

<http://www.showakako.co.jp/>

ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



ブラジルでビジネスや生活をする上で
欠かせないのがポルトガル語です。
BrAsia(ブレイジア)では、
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。
「講師任せにはしない」
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。

BrAsia(ブレイジア) 運営:株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階
TEL03-6263-0716
お問い合わせは E-mail: brasia@kanwajuku.com HP: <http://brasia-j.com/>

Churrascaria Que Bom!
www.que-bom.com

Produzido pela
ATHLETA®

LOJA ASAKUSA
TEL: 03-5826-1538
TOKYO-TO TAITO-KU
NISHI ASAKUSA 2-15-13 Nikkoshi B1F

LOJA SHIMBASHI
TEL: 03-6402-5685
TOKYO-TO MINATO-KU
SHIMBASHI 4-1-1 SHINTORA CORE 2F

～ お詫び ～

当 VAMOS 誌の出版は取り止めとなり、
後日電子版のみのスタートとなりました。
関係各社団体の皆様におかれましては
誠にご迷惑をお掛けしましたこと、
心よりお詫び申し上げます。

2022年4月スタート!

株式会社 フォーエバートラベル
〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目16番14号 宮川ビル3F

日本ブラジル中央協会

法人・個人・学生 新規会員募集中

会員数 法人会員 106社 個人会員 約480名 (2021年12月現在)

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」
にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布。
隔月発行、年6回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に
参加できます。(会員限定イベントへも参加いただけます)
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます。
4. 会員宛にメールでお伝えする、様々なブラジル情報をご覧頂けます。
5. ホームページにて、会員限定情報をご覧頂けます。

年会費

※入会金は不要です

法人会員 1口 20,000円 / 個人会員 1口 10,000円
(2口以上) (1口以上)

お申し込み



《日本ブラジル中央協会公式HP》

<https://www.nipo-brasil.org>

日本ブラジル中央協会 検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。

冬期ポルトガル語講座のご案内

受講生募集開始

当協会では、「楽しく学ぼう! 学んで話せる
ポルトガル語!」をモットーに実用ポルトガ
ル語講座を開講しております。

冬期ポルトガル語講座は、
2022年1月11日～3月18日まで開講。

※詳細は、HPを参照下さい。
<https://nipo-brasil.org/portugal/>

コースのご案内

- ◆全員の初心者コース【火曜 16:30～】
- ◆初心者コース【火曜 19:00～】
- ◆初級Ⅰコース【金曜 16:30～】
- ◆初級Ⅰコース【金曜 19:00～】
- ◆初級Ⅱコース【水曜 19:00～】
- ◆中級コース【月曜 19:00～】
- ◆上級コース【木曜 16:30～】
- ◆上級コース【木曜 19:00～】
- ◆上級会話コース【隔週土曜 11:00～】

イベントのご案内

山田彰 前在ブラジル日本国大使のオンライン講演会

日時: 2022年1月21日(金) 10:30～12:00 <日本時間>
開催方式: zoom ウェビナー
参加費: [会 員] 無料(法人会員の在ブラジル子会社の駐在員も含む)
[非会員] 1,000円

二宮正人サンパウロ大学教授 ランチョン・ミーティング

日時: 2022年1月26日(水) 12:00～14:00
会 場: ラ・ロシエル 山王(蒲池山王駅)
参加費: [会 員] 4,500円 [非会員] 5,000円

ブラジル駐在夫人ガイダンスセミナー

日時: 2022年3月26日(土) 9:30～12:00
開催方式: ZOOM オンライン
講 師: 伊藤 智晴(元丸紅駐在員夫人)
山口 セシリア(在サンパウロ、長年サンパウロで日本企業に勤務)
高嶋 協会理事(元 住友商事、在ブラジル 21年)
日本通運の予定

参加費: 会員所属企業の駐在員の配偶者 2,000円 非会員 3,000円
(夫婦で参加の場合は、+1,000円)

360° business innovation.



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティプラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

[Business innovation-2]

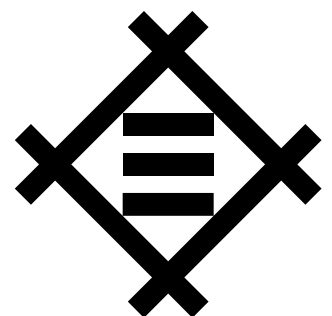
貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、
気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、
増産や品質向上に貢献。



世界の未来を、世界とつくる。三井物産

MITSUI & CO.